

II. 1. 刊行物等

○ 言語文化共同研究プロジェクト 2024 目次

『自然言語への理論的アプローチ』

越智 正男	日本語と中国語の複数形態素と類別詞表現の共起に関する考察
陳 韻雯	The Directional Prefixes in Qiang As Telic Marker
鄭 浩雯	中国語の再帰代名詞“自己”に関する一考察
永野 大夏	Phonological Allomorphs of sase
ヤン ムイ	A note on reportative evidentials in Qaraqalpaq

『認知・機能言語学研究 X』

小葉 哲哉	プロジェクトの目的と活動
孫 聰雨	使役受身構文の意味と形式—BCCWJ に基づく記述的分析—
王 鈺	中国語の“V 掉”、“V 下”の意味・機能とその拡張の動機づけ
小葉 哲哉	英語の軽動詞構文研究の進展と課題（1）

『Cultural Formation Studies VII』

木村 茂雄・小杉 世	はじめに
王 立珺	21 世紀アメリカ文学・映画におけるチベット表象：『ゼロ K』、『2012』 と『ザ・クリエイター/創造者』を例に
伊勢 芳夫	1930 年代の日・中の「歴史」創作について（3）：「満洲国」言説の知の 考古学的分析
Ghadimi, Amin	Washida Kiyokazu's Paradoxes of Property and the Clinical Philosophy of Huqúqu'lláh

『「文化」の解説（25）—文化と情報—』

Oliver Aumann	Daoismus in Japan (2) —Matsuo Bashō und das Buch <i>Zhuangzi</i> —
山本 佳樹	呪われた映画？ ——アメリカ、スイス、日本におけるナチ映画の同時代の受容——
津田 保夫	村上春樹『街とその不確かな壁』における二つの世界 ——不確かな壁のあちら側とこちら側——

『テキストマイニングとデジタル・ヒューマニティーズ 2024』

- 田畑 智司 プロジェクトの目的と活動
- 黄 晨雯 GraphRAG による日本語文学テキストの知識グラフ分析
—江戸川乱歩『D 坂の殺人事件』を事例として—
- 藤田 郁 Between Distant and Close: Sea and Inland in Tennyson by Topic Modelling
- Dimitra Vogatza Identifying Binary Oppositions in *the Lord of the Rings*:
A primary quantitative approach to binary oppositions
- 曹 芳慧 Hardy の Wessex 小説における伝達節とキャラクタライゼーション

『言語文化の比較と交流 12』

- 佐高 春音 容与堂本『水滸伝』「李卓吾評」に関する初歩的研究
—人物批評に注目して—
- 中 直一 森鷗外訳の翻訳流儀
—「玉を懷いて罪あり」を手掛かりに—
- 中村 綾乃 駐日大使ゾルフ②
—文人大使の交流—

『応用会話分析研究 2024 –政治経済外交の相互行為実践 2–』

- 岡田 悠佑 非難の相互行為的達成
—TikTok CEO に対する米議会公聴会の場面意味論—
- 古川 敏明 マウイ島ラーハイナー現地公聴会における沈黙と共感
—議会内公聴会との比較を念頭に—
- 福島 玲枝 極性質問に対する応答義務の交渉と説明責任の再構築：
公聴会における戦略的応答の言語実践
- 菊池 春花 通訳者が開始する自己・他者修復
米国公聴会でのパフォーマンス的応答の優先化

『時空と認知の言語学 XIV』

- 松浦幸祐・田村幸誠 日本語の母音融合に関する認知・機能音韻論的一考察
—ai, ui, oi の融合に見られる分布の偏りに着目して—
- 春木 仁孝 Rue X構文：現代フランス語における前置詞を取らない場所名詞について
on est arrivé rue Vaugelas

『応用言語学における理論と実践 ―研究と教育を通して―』

- | | |
|------------------------|--|
| 西田 理恵子 | 言語教師のウェルビーイングに関する質的研究：パイロット調査 |
| Lee Shzh-chen Nancy | A Collaborative Journey: Practical Report on a Joint Research Project with Graduate Students |
| Kanazawa Yu | Academic Yarigai, Assemble! Uniting Engagement, Motivation, Enjoyment, Well-being, and Ikigai under Academic Yarigai |
| Záborská Schack Dorota | Enhancing Critical Thinking About Real-World Challenges: Insights From a Project-Based EFL Course on Healthy Ageing |
| 綱澤 えり子 | 学習者エンゲージメントの概念と測定方法―行動的・認知的・感情的・社会的・主体的な視点からの概観― |

『"The Rhetoric IS the Message" 「レトリックはメッセージである」―修辞・意味・認知の関わり―』

- | | |
|-----------------------|--|
| 大森 文子 | 愛する人と自らと：シェイクスピアの <i>Sonnets</i> における関係性のメタファー |
| 渡辺 秀樹 | <i>Shakespeare's Sonnets</i> に見える繰り返しのレトリック(2) <i>myself, thyself, and my verse</i> |
| 高橋 克欣 | 日本語とフランス語におけるテンス・アスペクト形式と視点
―日本語の文学作品とそのフランス語翻訳の分析― |
| Gerry Yokota | Rhetorical Literacy and Freedom of Speech: An Intersectional Approach |
| Andrew Murakami-Smith | Is the "Literature of Possibility" Possible? A translation of Oda Sakunosuke's " <i>Kanōsei no bungaku</i> " with commentary |
| Hiromitsu Fukumoto | The Rhetorical Value and Message-Bearing Function of Split Infinitives in <i>TIME Magazine</i> |
| 中村 瑞樹 | 作者として死ぬ ―Don DeLillo の <i>MaoII</i> における創作意欲の源泉としての架空野球実況― |
| 山倉 佐恵子 | 取り立て否定表現「V はしない」のモダリティ用法：主題の「は」との関わり |
| 権田 彩良 | 現代短歌における記号とレトリック―「新鋭短歌シリーズ」を対象に― |

『表象と文化 XXII』

- | | |
|---------------------|---|
| Delbes Sébastien | De la salle de classe à l'espace numérique : écrire ensemble en français grâce à un forum |
| Garrabet Christophe | Jup, l'orang-outan à queue de L'Île mystérieuse : Jules Verne et l'« homme des bois » |
| 権田 彩良 | 歌人笹井宏之におけるひらがなの使用 |

- 川村 明日香 ———ひらがなの表現効果をめぐって———
物語構造における「脱対立」のメカニズム
- 篠原 学 ———悪役不在のディズニー映画を例に———
それを私は避けることができる
——コクトー『大脱走』におけるチェス——

『批判的社会言語学の様相』

- 陳凱欽 地域における多文化共生政策の比較分析
— 大阪市と豊橋市の事例から見る「共生」と「人権」の捉え方 —
- 王澄鶴 特定技能外国人は自由に転職できるのか
— 登録支援機関の認識を手がかりに —
- KAWABATA Emi (川端映美) Power Relation and Transformation of Agency in the Second Language Acquisition Process of a Foreign Resident in Japan: From the Sociocultural Approach
- 植田晃次 日本語での the Korean language の「呼称問題」の問題を考える
— 知と情の相克を超えて —
- 山下仁 批判的社会言語学のはじまり
— 自己批判、囚われないということ、これからの批判的社会言語学 —

『音声言語の研究 19』

- 郡 史郎 幼稚園等での挨拶「先生さようなら、みなさんさようなら」のメロディーとその地域差
—近畿の京阪式アクセント圏内の分布と現代の全国的画一化傾向—
- 夏目 琢磨 Varying degree of vowel similarity in consonance:
Phonological analysis of 19th-century poets
- 山本 武史 Ambisyllabicity in English:
Aspiration and pre-fortis clipping

『ことばと社会④』

- 榎本 剛士 「マルチモーダルな記号過程」から「行為の感じ」へ向かうための理論的
覚書
- 周 氷竹 関係性の中で構築される専門性と権威性
—精神障害ピアサポーターのアイデンティティ構築—
- 稲葉 皐 日本人留学経験者が感じる「制限」とその対処
- 山口 篤美 Rethinking “ELF users”:

山本 由実	A Narrative Analysis of Inner and Outer Circle Teachers in Japan 日本の英語教育についてのインタビュー・ナラティブに見るポジショニング
岸田 月穂	—日本人大学生英語学習者 2 名の事例をもとに— 配信者オンラインファンコミュニティにおけるアカウント使用と規範 —X 上の投稿の談話分析を通じて—

○言語文化共同研究プロジェクト 2025 一覧

整理 番号	共同プロジェクト名	研究代表者氏名
1	テキストマイニングとデジタル・ヒューマニティーズ 2025	田畑 智司
2	応用言語学における理論と実践 -研究と教育を通して-	西田 理恵子
3	ことばと社会⑤	泰 かおり
4	Cultural Formation Studies VIII	ガデミ アミン
5	自然言語への理論的アプローチ	杉本 侑嗣
6	認知・機能言語学研究 XI	小栗 哲哉
7	「文化」の解説 (26) —文化と情報—	鈴木 啓峻
8	応用会話分析研 2025—制度的会話としてのアメリカ議会公聴会—	岡田 悠佑
9	表象と文化 XXIII	林 千宏
10	批判的社会言語学の動態	植田 晃次
11	時空と認知の言語学 XV	王 周明
12	音声言語の研究 20	山本 武史
13	言語文化の比較と交流 13	鈴木 大介
14	身体化されたレトリック—色彩・感情・メタファー—	村上スミス・ アンドリュー